

令和元年度前学期 授業評価アンケート結果のまとめ

1. 実施方法

- (ア) 評価対象授業：原則として全教員各1科目、履修登録人数が15名以上。
- (イ) 第13週または14週の授業開始時に教室で事務職員が用紙を配布し、回答を回収する。記名式マークシート。

2. アンケートの内容

- (ア) 設問1：授業方法について6項目、設問2：授業内容について4項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれを10:5:0の10点満点に換算して平均点を求め、その合計を総合評価点とする。
- (イ) 設問3：授業で身に付いた力については、6つの項目に対して当てはまると思うものを回答する。
- (ウ) 設問4：履修の動機および1回の授業あたりの授業外学修時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選ぶ。

3. 解析結果

(ア) 設問1・設問2の項目ごとの平均点分布を、授業属性ごとに分けてグラフにしたものを図1-1～4に示す。全体的な傾向には、昨年度の結果と大きな違いが認められない。特に共通基盤WS2に関しては、改善すべき点が多いと感じられる。

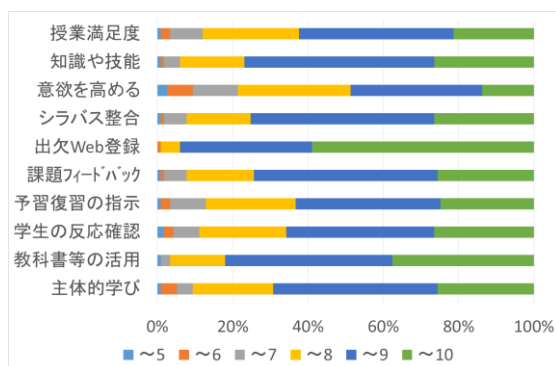


図 1-1 講義・演習 (n=117)

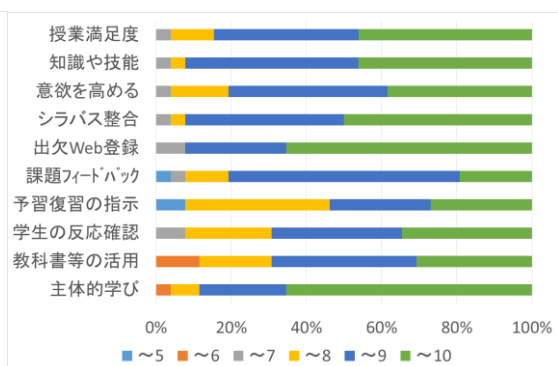


図 1-2 実験・実習・実技 (n=26)

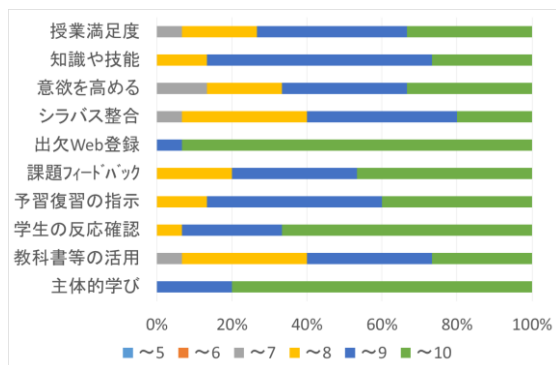


図 1-3 共通基盤 WS1A (n=15)

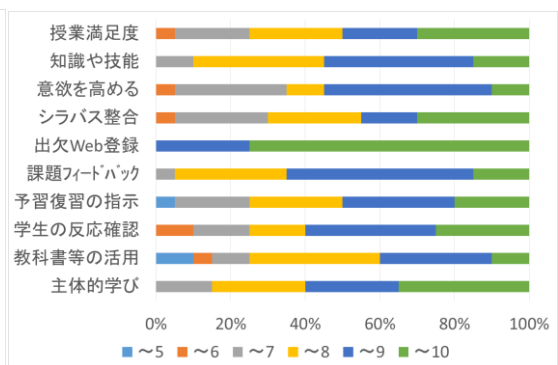


図 1-4 共通基盤 WS2A (n=20)

(イ) 総合評価点（講義・演習授業のみ）の分布を図2に示す。昨年度前学期と比較して、80点未満の授業が減少しており、全体としての改善がさらに進んでいるものと考えられる。

(ウ) 1回の授業あたりの授業外学修時間の回答分布を、授業属性ごとに分けて図3に示す。全体として、まったく無しという回答が1/4程度という状況は変わっておらず、学生への意識付けとともに、教員からの課題等の提示が不十分な授業に対する個別の対応が必要といえる。

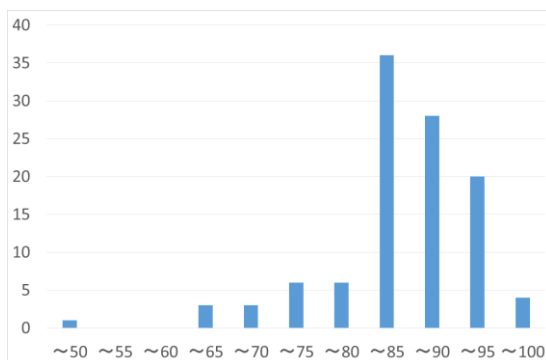


図2 総合評価点（講義・演習のみ）

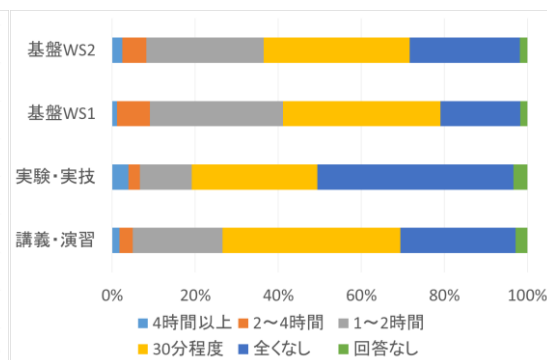


図3 授業外学修時間

(エ) 身に付いた力各項目の回答率分布を、授業属性ごとに図4-1~4に示す。授業の属性による特徴がはっきり表れているが、個々の授業を見るとまだばらつきが大きいので、この結果を踏まえての改善が必要と考えている。

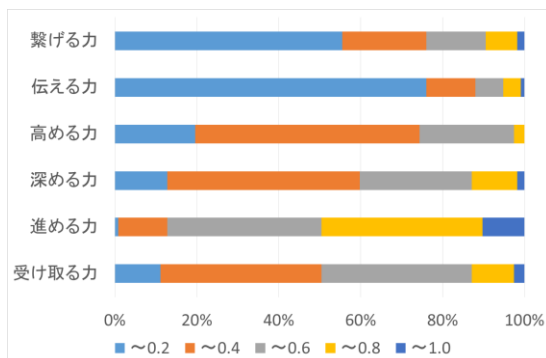


図4-1 身に付いた力（講義・演習）

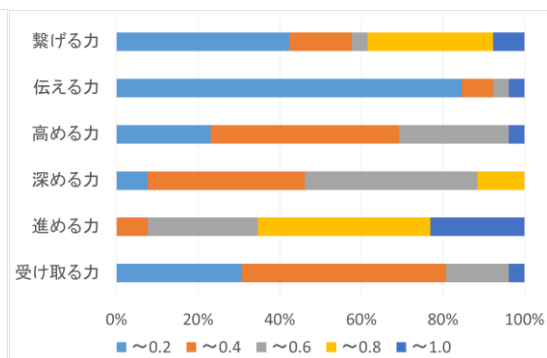


図4-2 身に付いた力（実験・実習・実技）

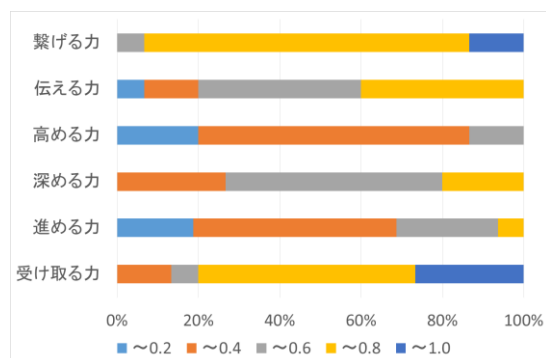


図4-1 身に付いた力（共通基盤 WS1A）

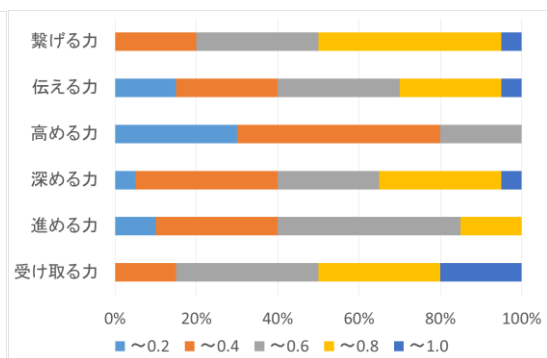


図4-2 身に付いた力（共通基盤 WS2A）